



日本物理学会 ダイバーシティ推進委員会 活動報告

Recent activities of Diversity, Equity, & Inclusion (DEI) Committee, The Physical Society of Japan

齊藤 準^{1,2} 小林 夏野^{1,3} 成木 恵^{1,4} 馬場 彩^{1,5} 角野 秀一^{1,6}

日本物理学会¹、帯広畜産大学農学情報基盤センター²、北海道大学電子科学研究所³、京都大学理学研究科⁴、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻⁵、東京都立大学大学院理学研究科⁶

◆日本物理学会のダイバーシティ推進委員会◆

日本物理学会は1877年に創立された会員数が約15000人の学会である。本学会の女性比率は基本的に増加し続けているものの現在も6 %程度であり、これは世界的に見ても小さな数字である。2002年に発足した男女共同参画推進委員会は2023年からダイバーシティ推進委員会と名前を変え、今後さらに多くの女性研究者が男性研究者と共に活躍し、物理学がますます発展するよう様々な活動を行なっている。以下に、この1年間の主な活動内容を報告する。

◆基本方針◆

①女性研究者の研究・教育環境を改善する事、②女性研究者を含めた次世代人材を育成する事を指針に、国内外の機関と連携して活動を行う。

◆活動報告◆

【1】米沢富美子記念賞 第7回受賞者決定

物理学会では女性会員の活躍を讃え、奨励するために2019年度に米沢富美子記念賞を設立した。毎年受賞者を選考し物理学会年次大会において表彰している。2026年度には第7回募集を行い、4名の女性会員に賞を授与した。

【2】次世代教育支援

2005年度より「女子中高生夏の学校」に本学会員を実行委員およびプログラム担当委員として派遣している。2026年度は昨年度に引き続きオリンピック記念青少年総合センターで開催された。16の実験、46のポスター参加団体と共に本委員会の担当委員が全国から受け入れた99名の生徒を対象に実習・実験やポスター展示を行った[1]。また、2006年度より継続的に「女子中高生のための関西科学塾」の支援をしている。2010年度から協賛金の形で支援をしてきたが、2021年度からは賛助会員として協賛し、活動にも積極的に参加している。2026年度も7月26日開催のA日程より、本委員会の担当者らが登壇している。

[1]https://natsugaku.jp/wp-content/uploads/2026/09/Natsugaku2026_reportJ.pdf



物理学会担当の実験の様子

物理学会担当のポスターの様子

【3】学協会連絡会活動

学協会連絡会運営委員会、大規模アンケート解析WG、シンポジウムに参加している。

【4】国際交流

本委員会の活動内容を中国海口で開催された Asia Pacific Physical Conference (APPC16) の Women in Physics セッション（2025年10月20日）に参加し発表を行った。また、2027年6月に開催される物理学の国際連合（IUPAP）の International Conference on Women in Physics に関し、応用物理学会との連絡会で参加準備を進めている。

【5】年次大会での託児室の開設

物理学会では、毎年秋に全国規模の対面学術講演会（年次大会）を開催しており、約5,000名の研究者が参加している。大会期間中は託児室が設置され、事前に申し込んで希望すれば誰でも利用できる。2026年度も9月14日から17日の期間中、各日で複数の利用があった。託児室の終了後は利用者に運営向上のためのアンケートを実施し、その内容を委員会内で共有することでより一層の利便性の向上を目指している。

【6】年次大会でのミーティング開催

日本物理学会年次大会にて、本委員会主催のインフォーマルミーティングを開催してきた。2026年年次大会(2026年9月・東京大学)では「男女共同参画へ向けた国内大学の活動紹介と参加者による意見交換」を開催し、40人以上の参加者による活発な意見交換が行われた。



【7】年次大会関連企画の開催

日本物理学科年次大会会場にて、関連企画として大会最終日の9月17日に「物理系女子学生お茶会」を試行開催した。大会非参加者の学部生も含め20名以上が参加し、盛況となった。

【8】広報活動

HP(<https://www.jps.or.jp/activities/iinkai/dei/top.php>)に委員会報告やイベントごとに活動報告を掲載している。また、日本物理学会誌に活動報告を掲載している。